

航空機戦闘報告書

部外秘
(記入後は再分類すること)

機密

報告書番号 AG-47, #97 (VF-47, #93)

VI. 味方航空機の損失または損害(戦闘または運用上)(本報告書II項に記載の機体のみ)

(a) 機種	(b) 部隊名	(c) 原因(敵機の機種、兵器、または運用上の原因)	(d) 被弾箇所、角度 (装甲、防漏タンク、被弾した装備を記載)	(e) 損失または損害の程度 (破壊された機体は製造番号を記載)
1 なし				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				

VII. 搭乗員の死傷者(本報告書II項の機体のみ。左の番号でVI項の機体と対応させること)

(a) 機種	(b) 所属部隊	(c) 氏名・階級・管理番号	(d) 原因	(e) 状態
		なし		

VIII. 帰投した航空機の航続距離、燃料、弾薬データ

(a) 機種	(b) 往路 (マイル)	(c) 復路 (マイル)	(d) 平均飛行時間	(e) 平均搭載燃料 (ガロン)	(f) 平均消費燃料 (ガロン)	(g)消費弾薬				(h) 帰投機数
						30口径	50口径	20MM	MM	
F6F-5 (ハルキャット)	146マイル (約235km)	146マイル (約235km)	3時間30分	400ガロン (約1,514ℓ)	280-320ガロン (約1,060ℓ~1,211ℓ)		2,500発			

IX. 遭遇した敵の対空砲火(各行、該当するブロックにチェック)

口径	なし	わずか	中程度	激しい
大口径- 時限信管付き砲弾、75mm以上	*			
中口径- 着発信管付き砲弾、20mm-50mm		* (茂原にて)		
小口径- 機関銃弾、6.5mm-13.2mm		*		

X. 味方機と敵機の性能比較(左のチェックリストを使用)

- 速度、上昇力
(各高度において)
- 旋回
- 急降下
- 上昇限度
- 航続距離
- 防御力
- 武装力

比較の機会なし。

航空機戦闘報告書

(攻撃を行わなかった場合は、このシートを省略すること)

機密

報告書番号 AG-47, #97 (VF-47, #93)

XI. 敵艦船または地上目標への攻撃(本報告書II項に記載の味方機によるもののみ)

(a) 目標および場所 東京湾周辺の飛行場 (b) 目標上空時刻 9:45~10:45(日本時間)

(戦艦については、攻撃区域内の全隻を対象とせよ)

(c) 目標上空の雲 雲無し

(雲底の高度(フィート単位)、雲の種類および雲量(10分率))

(d) 目標の視認性 快晴 (e) 視程 15~20マイル(約24~32km)

(快晴、霞、所々に雲、その他)

(マイル)

(f) 攻撃戦術: 種類 急降下 使用照準器 Mark8

ロケット弾 4発 (水平飛行、滑空、急降下) (種類)

1回あたりの投下数 1発 間隔 --- 投下高度 3,000~4,000フィート(約914~1,219m)

(NUMBER)

(フィート)

(フィート)

(g) 地上にて命中させた敵機: 破壊 --- 概ね破壊 --- 損害 16

(h) 照準点	(i) 寸法またはトン数	(j) 機数	(l) 各照準点ごとの爆弾・弾薬消費量	(m) 照準点への命中数	(n) 損害(なし、軽微、重大、撃破または撃沈)
		(k) 部隊名			
八街飛行場の航空機	単発機	7機	爆弾4発、ロケット弾8発、機銃掃射		飛行場北東角に駐機中の単発機2機の近くに爆弾1発が着弾したと報告。6機に機銃掃射を実施。
		第47戦闘飛行隊			
宮川飛行場の航空機	単発機 4発機	7機	爆弾3発、ロケット弾20発		飛行場南東角にいた4発機の近くに爆弾3発が命中。ロケット弾の戦果は観測できず。10機に機銃掃射を実施。
		第47戦闘飛行隊			

(o) 戦果: (艦船目標への全命中弾、および特に重要な地上目標については、命中弾の種類と箇所を示す図を描画すること。全ての目標について、命中箇所とその効果を記述し、上記の番号で識別すること。必要であれば、別紙を使用せよ)

(1) 八街飛行場にて6機による機銃掃射を実施。
(2) 宮川飛行場にて10機への機銃掃射を実施。4発機(写真によればB-24に酷似)への至近弾により、同機も損害を与えた可能性あり。空母パターンおよび第38.3任務群による写真解析報告も、同機の損害を示唆。
注記: 1945年7月10日の第38任務部隊司令官の報告によれば、八街飛行場に6機、宮川飛行場に19機の作戦行動不能な航空機が存在を示唆。

(p) 写真は撮影されたか? はい 損害を写した写真がある場合は、ホチキスで添付すること。
JicPoa(太平洋地域統連合情報センター)へ提出する本報告書の写しに選別した写真を添付。

XII. 戦術および作戦データ (物語形式の報告と所見。左のチェックリストにある該当項目に沿って、行動の全てを記述し、自由に意見を述べる。必要であれば、別紙を使用せよ。)

敵との交戦

味方機
配置
高度
速度
接近戦術
遮蔽物の利用、欺瞞
攻撃角度とその有効性
射撃開始距離
防御戦術とその有効性
敵機
発見方法
距離
配置
高度
速度
接近戦術
遮蔽物の利用、欺瞞
攻撃角度
射撃開始距離、防御戦術

所見および提言事項

自軍の弱点
敵の弱点
攻撃戦術
自軍の攻撃戦術
敵の防御戦術
自軍の防御戦術
敵の防御砲火
自軍の護衛戦術
戦闘機管制
レーダーの活用
夜間戦闘
敵味方識別、航空機

攻撃

自軍の戦術
目標の発見方法
目標への接近
(高度、速度)
最終進入
急降下
引き起こし
急降下角度
機銃掃射
離脱
防御戦術
電波妨害の活用
敵軍の防御
回避戦術、艦船の偽装
探照灯
夜間戦闘機の戦術
電波妨害の活用
所見および提言
爆撃戦術
雷撃戦術
爆弾・魚雷の有効性
目標の選定
信管設定
機銃掃射戦術
防御戦術
レーダーの活用
偵察
写真撮影
ブリーフィング

作戦運用

航法
帰投誘導
合流
識別、艦船
通信
飛行運用
搜索および追跡
基地運用
整備

この日2回目となる空母バターン隊による掃討作戦は、空母ランドルフ隊との共同作戦であった。

第一次攻撃は八街飛行場に対して、北西から南東の方向へ実施した。空母バターン隊は飛行場北東端の航空機3機と、東側駐機の4機に攻撃を集中した。これらの駐機中の航空機のうち2機に対し、爆弾投下による損害を与えた可能性あり。ただし、その戦果は未確認。敵機全6機に機銃掃射を実施。当飛行場における、対空砲火の観測なし。

高度回復後、空母バターン隊および空母ランドルフ隊による宮川飛行場の攻撃を実施。第47戦闘飛行隊の各機は飛行場南東角の駐機航空機に攻撃を集中した。この飛行場角のすぐ外にあった掩体壕内の航空機へも機銃掃射を実施した。

当区域の航空機に対し、爆弾3発投下と、20発のロケット弾を発射。この攻撃において、約10機の航空機が損害を受けたと確信。B-24(アメリカ陸軍の4発(エンジン)重爆撃機)に酷似した大型4発(エンジン)飛行機1機が機銃掃射を受けた。至近距離による爆弾とロケット弾の炸裂により、損害を受けたと推定。炎上した航空機はなし。

軽微な中口径および小口径の対空砲火を観測。

空中での敵機との遭遇なし。

航空機戦闘報告書

部外秘
(記入後は再分類すること)

機密

報告書番号 AG-47, #97 (VF-47, #93)

XIII. 資料データ (左のチェックリストに沿って、性能や適合性について自由に記述すること。必要であれば、別紙を使用せよ。)

- 兵装
- 銃、照準器
- 砲塔
- 弾薬
- 爆弾、魚雷
- 爆撃照準器
- 爆弾投下装置
- 通信
- 無線機、レーダー
- 帰投誘導装置
- 視覚信号
- コード、暗号
- 通信
- 敵味方識別装置 (IFF)
- 信号
- 手順
- 防御
- 装甲箇所、およびさらなる防御が必要な射角
- 防漏装備
- 緊急装備
- パラシュート
- 救命帯、救命ボート
- 安全ベルト
- 緊急キット
- レーション、救急用品
- 航法装備
- コンパス
- 偏流測定器
- 八分儀
- 自動操縦装置
- 海図
- 飛行場灯火
- 計器
- 飛行計器
- エンジン計器
- 酸素システム
- 迷彩および欺瞞装置
- 構造
- 機体フレーム
- 操縦翼面
- 操縦系統
- ダンプフラップ
- 着陸装置
- 暖房システム
- 飛行特性 (様々な搭載量において)
- 動力装置 (パワープラント)
- エンジン
- エンジン補機類
- プロペラ
- 潤滑システム
- 始動機
- 排気炎減衰器
- 油圧システム
- 電気系統
- 補助電源装置
- 灯火
- 燃料系統
- 飛行服
- 整備
- 基地施設
- 機体整備用機材
- 人員用施設

装備は満足に機能。

報告書作成者:
D.N. ステットソン、海軍予備役大尉、航空戦闘情報士官

承認者:
A.H. クランシー・ジュニア、海軍中佐、第47航空群司令

署 名

階級および役職

署 名

階級および役職

1945年7月12日

日 付